

第3回三校PTA協議会より

【三校PTA協議会のねらい】

- 有明中校区の小中学校の教育課題を確認し、学校、PTA、地域の連携を深め、児童生徒の健全育成に資するものとする。
- 地域や家庭における子どもたちの様子を把握し、地域活性化のための人材育成に努めるとともに、防犯や防災について共通理解を深める。

2月13日(火)に第3回三校PTA協議会が開催され、来年度の共通実践事項が決定しました。

来年度は、下記にあるようにメディア・ルールについて各家庭で話し合い、各家庭ごとのルールを決めて実践していくという新しい取組を盛り込みました。また、「あいさつ」についても改めて重点化して三校で取り組んでいきたいと思います。

【令和5年度共通実践事項】

- 知・・・メディアとの付き合い方
- 徳・・・相手を思いやる言葉
- 体・・・自力登校・自転車の安全な乗り方



【令和6年度共通実践事項】

- 知・・・我が家のメディアルール
- 徳・・・相手を思いやる言葉やあいさつ
- 体・・・自力登校・自転車の安全な乗り方

令和5年度鹿児島学習定着度調査結果

令和5年度鹿児島学習定着度調査結果分析(課題と今後の対策)						
志布志市立(有明)中学校						
1 令和5年度結果概要			(2) 令和5年度鹿児島学習定着度調査(中2)			
(1) 令和5年度鹿児島学習定着度調査(中1)			(2) 令和5年度鹿児島学習定着度調査(中2)			
教科	国語	社会	数学	理科	英語	
本校通過率	55.6	31.3	54.2	45.8	58.9	通過率
市通過率	71.8	47.1	72.2	60.3	73.2	市通過率
地区通過率	74.4	53.5	73.9	65.1	75.2	地区通過率
県通過率	75.9	54.4	74.3	66.3	77.0	県通過率

  

教科	国語	社会	数学	理科	英語
市差	-16.2	-15.8	-18.0	-14.5	-14.3
県差	-20.3	-23.1	-20.1	-20.5	-18.1

  

教科	国語	社会	数学	理科	英語
市差	-4.0	-11.2	-10.5	-5.4	-4.5
県差	-12.7	-19.2	-16.5	-11.1	-12.2

(2) 知識・技能及び思考・判断 正答率											
中学校1年	国語	社会	数学	理科	英語	中学校2年	国語	社会	数学	理科	英語
知識・技能	58.1	29.2	61.3	49.9	61.0	知識・技能	51.5	43.0	59.6	68.3	60.1
思考・判断・表現	53.2	35.5	44.4	39.1	56.1	思考・判断・表現	54.3	41.4	39.0	41.1	58.5
無答率	16.3	19.4	6.3	5.9	8.8	無答率	6.4	9.8	6.9	1.7	9.0

  

2 成果と課題

(1) 国語

【課題】  
 (1年生)④「散らかる」を漢字で書く問題(市町村平均との差-41%)→散らかるの意味もわかっていない可能性がある。  
 ⑤作文問題。仮の立場で意見を述べる(市町村平均との差-28%)→「引用」という言葉が問いに使われており、意味がわからない可能性  
 (2年生)④物語中の対照的な情景描写を探す(県平均との差-23%)  
 ⑤効果的なプレゼンテーション資料を選ぶ問題(県平均との差-15.3%)→読解力が十分に定着していない。

【課題解決策】  
 (1年生)①・②・④→基礎基本に当たる部分。普段の授業の中で繰り返し取り組む。毎時間、漢字の小テストを実施中。2学期後半から授業内での取り組みが向上しているため、継続する。  
 ③・⑤→定期テストでの作問を、定着度調査に寄せるよう努めて、問題になれさせる。  
 (2年生)②・③→基礎基本に当たる部分。普段の授業の中で繰り返し取り組む。新しい単元に入る際にその都度復習をする。  
 ①・④・⑤→読み解く活動を授業に増やせるようにする。定期テストでの作問を、定着度調査に寄せるよう努めて、問題になれさせる。

(2) 社会

【課題】  
 ・意欲の欠如、あきらめ  
 ・基礎的な学力の不足

【課題解決策】  
 ・興味のある課題の提示  
 ・時間の確保させる(スマホの使用)  
 ・学習する必要性を理解させる  
 聞く時間、考える時間、話す時間を確保する  
 授業の妨害になることをさせない。

(3) 数学

【課題】  
 (1年生)・「数と式」領域の正答率が特に低い傾向がある。市町村平均や県平均通過率と比較しても差が特に大きい傾向がある。基礎的な計算力不足が原因と考えられる。  
 ・「思考力」を要する設問の正答率が特に低い傾向がある。文章をよく読んで粘り強く考える経験が少ないためと考えられる。  
 (2年生)・計算問題が約5割、特に連立方程式については4割の正答率と低い。無解答(28.6%)も多い。市平均の7割を目指したい。▼・文字式による説明問題(記述)が正答率(9.5%)無解答率(38.1%)と極端にできていない。説明・証明については課題である。・全体的に問題文が長く、自ら読んで解くという力がまだついていない。

【課題解決策】  
 (1年生)(1) 授業の五則を確実にできるように他教科と連携して粘り強く支援する。下位の生徒への手立てと上位の生徒への手立てを分けて考えることが必要。  
 (2) 家庭学習について、より具体的に指示をし、未届けと賞賛を行う。  
 (3) 学習に向かう姿勢を作れない生徒がおり、学力の定着につながらない。「できる」経験を積ませて問題に向き合う姿勢を作りたい。  
 (2年生)(1) 問題を読む・解く時間を作り、自ら考える時間を設定する。授業の振り返り、確認問題の時間を設定する。  
 (2) 教科書の練習問題、ワーク等を利用し、家庭学習での課題を設定する。  
 (3) 年度当初と比べると、授業に集中する、問題を解こうとする生徒が増えたが、基礎・基本の力が定着していないこともあり、「この方法を使えば解けるが、使い方がわからない…」などのこともあるので、随時復習を入れながら授業をしていく必要がある。

(4) 理科

【課題】  
 (1年生)・長文の中の空欄を考える問題の正答率・無解答率が高かった。  
 ・単純な知識を問う問題(問題文長い)の無解答率が高かった。  
 → グラフを読み取る基礎的な知識の不足が考えられる。文章を読む集中力、意欲が低いと考えられる。1学期に学習した内容で、忘れていた可能性あり。  
 (2年生)・銅と酸化銅の質量を計算によって求める…計算となると読む前から諦めてしまっていることが考えられる。  
 ・飽和水蒸気量の計算…上と同様の理由が考えられる。

【課題解決策】  
 (1年生)(1) 体験的な学習を充実させる。  
 (2) 1学期からの復習プリントを週末課題として取り組ませる。  
 (3) 事象の仕組みを細かく説明をして話を聞かない生徒が非常に多い。生徒同士で説明したり、生徒が前に立って説明したりする場面を設けて、学習に参加する意欲を高める。  
 ・教師側の学習定着に対するしかけができるように、静と動のけじめや私語を減らすこと、授業道具をきちんと準備することなど学習態度を向上させる。  
 (2年生)(1) 理科は実物が見せられたり、触れたり、検証したりすることができるので、事物を見せ、触れさせ、体験させることが大切であると考えられる。  
 (2) 知識の定着のために、課題プリントを設定するなど、振り返る時間を作る必要がある。現在プリントやワークを自宅でするように指示を出すのが、不十分である。  
 (3) ① 生徒の姿勢・意欲…実生活と結びつけたり、興味を持てるような事象提示を行う。  
 ② 昨年度から2学期の授業の中で5分～10分くらいのよか間を 解かせる 時間をとっているが、指導過程に入れ込めるようにする。  
 ③個別指導…タブレットのAIドリルなどを活用し、自分で学 習できる状況を作る。  
 ④その他

(5) 英語

【課題】(1年生)・ 基本的な単語・基本文を自分の考えを表現する問題 市平均-23% → 基本的な単語の習得が不十分であったため。  
 ・ ある程度まとまった内容の英文のポイントを聞き取る問題市平均-20% → 授業の中で、短かめの英文でシンプルに伝えることが多かったことが原因としてあげられる。  
 (2年生)・ 対話が成り立つように、語彙を補充して英文を完成させる問題市平均-24% → 「よかもん」に取り組んできたが、定着が不十分であった。  
 ・ 的確に代名詞を使って英文を作る問題 市平均-17% → 授業の中で、主格を使って表現することが多かったため。  
 代名詞の使用についての定着不足のため。  
 ・ スピーチを読み、最後の質問に答える問題 市平均-17% → 一問一答の英問英答の練習が多かったこと。また質問に答えられる生徒も、そこまでの英文を読むのが難しかったことが予想される。

【課題解決策】  
 (1年生)(1) 授業の中で、重要語句をしっかり覚える時間を確保する。  
 (2) 生徒が意欲的に取り組むタブレットドリルの効果的な活用について考える。  
 (3) 授業である程度まとまった文を聞き取る活動を取り入れる。  
 (4) 生徒が学習意欲を高めるため、プレゼンによるパフォーマンステストを継続して実施する。  
 (5) 自宅学習を、英宅からプリントや音読課題を中心にさせる。  
 (2年生)(1) 授業の中で、単語や重要語句をしっかり覚える時間を確保する。「今日の一問」や小テストの継続。  
 (2) 対話表現を習得するため、スピーキング活動を継続して取り組む。二文以上で答える練習をさせる。  
 (3) 生徒が意欲的に取り組むタブレットドリルの効果的な活用について考える。  
 (4) ALTとの授業である程度まとまった英文を聞き取る活動を取り入れる。  
 (5) 自宅学習を、英宅からプリントや音読課題を中心にさせる。